

教師としての資質が育つ ボランティア活動

社会参加実習

6 2010年11月22日

発行:附属教育実践総合センター

11月18日に甲府市立舞鶴小学校を訪問させていただきました。「教員の先輩として、**学生を育てるという意識**で受け入れています」と熱く語る校長先生は、自らボランティアガイダンスに参加した経験もおもいです。多くの先生方に支えられながら、学生は、しっかりとした目的意識をもってボランティア活動に取り組んでいました。

有泉校長先生のお話

(教育ボランティアについて)

- ・ 子どもへの細かい指導にこの活動を活かしたい。特にほめること、声かけを通して、子どもに自信をつけてもらいたい。
- ・ 若い学生が入ることは学校の活性化につながる。来てくれることに喜びを感じている子どももいる。
- ・ 教育実習では分からない現場の状況を把握できるという、**学生にとってのメリット**もある。学生と社会人としての教員とのギャップを埋めるということができることも大きい。この経験は非常に貴重である。
- ・ 先生方の指導技術やよさを自分のものにしてやろうという気持ちで、**高い志と目標**をもって、主体的に参加してほしい。

(学生の様子)

- ・ しっかり挨拶もでき、対応もよい。**梨大生には安心感もっている。**
- ・ 欠席もせず来てくれるので信頼がおける。将来もきちんとやっていける人間だと思える。

平行四辺形の面積の求め方を考えています



(音楽教育 4年 田口恵衣さん)

- ・ 将来教師になりたいと思い、現場の実態を知りたくて申し込みました。
- ・ 昨年から活動しているので、いろいろな子どもが声をかけてくれるようになりました。先生方からも気さくに声をかけていただけるのが嬉しいです。
- ・ 低学年と高学年、それぞれに合った言葉のかけ方が難しいですが、年齢による指導の違いが分かって勉強になります。



ブロックを使って、くり下がりのある引き算を教えています



国語「平和のとりでを築く」の学習です

有泉校長先生・英保教頭先生・樋川教務主任とともに



かけ算のきまりについて指導しています

(音楽教育 4年 山岸 恵さん)

- ・ 教育実習に対する不安もあり、子どもにかかわる機会を多くもちたいと思い参加しました。
- ・ 実習と違い、1年間という長いスパンで考えられるのがよいと思います。子どもが私たちを特別扱いせず、普通の教師のように見てくれるのが嬉しいです。
- ・ 言い過ぎて、子どもの思考を妨げてしまうのではないかと心配することがあります。そんなとき、先生方の一人ひとりに対する言葉のかけ方は、とても参考になります。

子どもの目線に合わせて指導する姿が、とても印象的でした。